

社保研究部

# 社保講習会始まる

## 歯管・在宅医療を解説

協会・社保研究部は「歯科保険診療の研究2008年4月版」をテキストに解説する「全3回シリーズ 社保講習会」を6月23日からM&Dホールでスタートした。

第1回は「初診・再診、医学管理料」、第2章「在宅医療」で、小澤力・副理事長(社保研究部副部長)と平尾清・社保研究部員が担当した。

患者にP検査を行わずに初回の歯管130点を算定したために返戻されるケースが多々ある。通知上では検査が必要になっていないので、注意してほしい」と呼び掛けた。同氏は続けて「無歯顎患者の歯管算定には、Stomなどの粘膜炎疾患病名と薬剤での治療が条件になる」と添えた。

また、初診料への外来費30点の加算には医療機器の設置に加えて、医療安全院内感染防止に努めている旨の院内掲示が必要になるので、協会の講習会を活用してマニュアルの整備に役立ててほしいと述べた。

初・再診料が包括されたことを指摘。新設された在宅医療の点数について、「在宅患者連携指導料や退院時共同指導料などの点数は歯科単独で算定することはできない。必ず医師などの他職種との連携が必要になる。しかし、介護保険を持って

いる人は対象にならない」と説明した。次回は7月26日(土)午後6時からM&Dホールで開催。同テキストの3〜5章の解説をする。参加を希望する先生は事前に協会(Tel.06・6568・7731)まで。

### 08 改定アンケート

## 新技術の保険導入不評 「点数低い」「不要」が多数

08年の歯科診療報酬改定は、歯科界や国民の要望により、初・再診料の引き上げや6つの新技術の保険導入など、一定の運動の反映もあつた。これらの新設された技術等について、会員の受け止めを調べた。

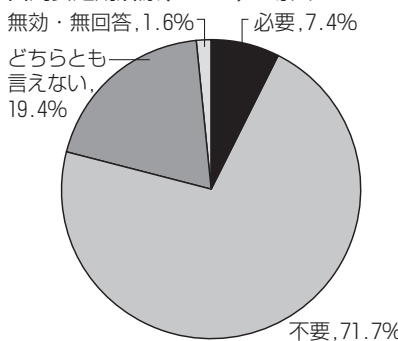
歯周病安定期治療(SPT)の導入については、「必要」との回答は74%にとどまり、「不要」との回答が26%と7割を超えた。SPTは、低点数で長期管理を押し付け、治療しなかつたときのペナルティも予想

されるなど、日常臨床に沿ったものとはいいがたなく、当然の結果である。GTR、接着ブリッジ、レーザー、非侵襲性歯髄覆罩の新しい技術等の保険導入では、「点数が低い」との回答が38・0%と45・3%と最も高

い。ついで「保険導入は不要」との回答が24・8%と38・0%で続く(表)。あまりにも低い点数のために会員の受け止めは厳しい。「保険導入は不要」との回答も多

く、再検討が必要である。今改定で日本歯科医学会が改定した「治療指針(ガイドライン)」が診療報酬体系に持ち込まれたことについて、治療指針を基準とすべきで

歯周安定期治療(SPT)の導入について



先進技術等の保険点数について

	点数が高い	点数は適当	点数が低い	保険導入は不要	どちらとも言えない
GTR	1.2%	3.1%	38.0%	32.6%	22.1%
接着ブリッジ	0.0%	7.0%	40.3%	27.1%	24.0%
レーザー	0.0%	1.6%	42.6%	38.0%	15.5%
非侵襲性歯髄覆罩	0.0%	5.0%	45.3%	24.8%	22.5%

上半期の協会の運動

# 波動的な要請で国会動く 「後期」医療廃止へ取り組み強める

衆議院本会議は6月20日、野党4党が提出していた後期高齢者医療制度廃止法案を「継続審議」とするに決めた。後



6月5日の要請で柳本議員(自民=左から3人目)と面談した永田悦夫副理事長(右から3人目)と寺嶋洋幸理事(右から2人目)

議員別署名受取状況(敬称略)

	自主共済の署名	「後期」医療制度の署名
柳本卓治(衆・自民)	○	—
長安豊(衆・民主)	○	○
梅村聡(参・民主)	○	○
吉井英勝(衆・共産)	○	○
石井郁子(衆・共産)	○	○
山下芳生(参・共産)	○	○
辻元清美(衆・社民)	○	○

期高齢者終末期相談支援料についても、中医協で一時凍結されることが了承されている。これは、600万筆を超える署名や、協会・保団連の波動的な国会への要請行動や集会など、国民の声と運動が国会を動かした結果である。協会は今年に入ってか

ら、8回にわたりに上京し、国会議員要請や後期高齢者医療制度反対の集会などの取り組み、他団体との街頭宣伝、地域での学習会や、後期高齢者医療制度開始時の緊急電話相談などの活動に取り組んできた。議員要請では、①後期高齢者医療制度の中止

を撤回②自主共済制度の保険業法からの適用除外③歯科診療報酬の改善④などを求めて、大阪選出の国会議員に要請した。この間、竹本直一議員、柳本卓治議員(衆・自民)、長安豊議員、平

野博文議員(衆・民主)、梅村聡議員(参・民主)、吉井英勝議員、石井郁子議員(衆・共産)、山下芳生議員(参・共産)、辻元清美議員(衆・民主)らと面談し、後期高齢者医療制度については、野党だけでなく与党議員からも改善すべきだとの声があつた。竹本議員は診療報酬の引き上げ要請について「技術料に関しては対価を支払うべき」と一定の理解を示し、長安議員は「後期高齢者医療制度の廃止にむけて全力で取り組む」と力強く述べた。署名については、累計で「自主共済の保険業法からの適用除外を求める請願署名」を6103筆、「後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める請願署名」を2551筆、国会に届けている(表)。

6月5日の国会要請では、寺嶋洋幸理事の紹介で、自民党で交通安全対策特別委員長を務める柳本議員には、訪問診療の車両を「駐車禁止除外車標準」対象になるよう警察庁・公安委員会へ働き掛け、都道府県警察に改善させるよう要請した。政府・与党は、後期高齢者廃止法案を継続審議としたものの、この制度の一部「見直し」でやり過ぎとされている。8月末にも開会が見込まれている臨時国会では、協会は同制度の中止・撤回にむけて、さらなる取り組みを進める。

堺・高石・和泉地区

## GTRのポイント学ぶ

### 歯周基本治療が重要

4月の診療報酬改定で歯周組織再生誘導手術(GTR)が保険導入されたのをうけ、協会の堺・高石・和泉地区は6月12日、地区講習会「歯周病の基本治療とGTR」を開いた。講師は、GTRのインストラクターである中島康氏(高石市)が参加した。中島氏はGTRなどの

歯周外科手術を行う前の、歯周基本治療の重要性を強調。「患者へのプラークコントロールの重要性の伝え方」として、患者との接し方から歯周病の説明方法を紹介し、患者自身に問題点を気づいてもらうことの重要性を指摘した。後半では、ゴアテック製の非吸収性メンブレンを用いた術式を、クリニカルガイドラインに沿って説明した。手術時のポイントは、いかにメンブレン下部に歯根膜再生のスペースを確保するかどうかであり、そのためのポイントを解説した。同氏は最後に、「GTRなどのハイリスク・ハイリターンな治療に目を向けるより、プラークコントロールを着実に進めば、ロリスク・ハイリターンが得られる」と強調した。(阪南市・土田仁)

願署名」を2551筆、国会に届けている(表)。

Festa 31th 第31回協同組合まつり

日時 10月11日(土)・12日(日) 10:00~19:00 10:00~17:00

場所 マイドームおおさか <http://www.mydome.jp/mydomeosaka/>

11日(土)・12日(日) 組合員交流ステージ 『With You LIVE』

お楽しみ大抽選会 特等旅行券 ほか盛りだくさん!!

医療用ITコーナー  
歯の無料健康相談コーナー  
健康度チェックコーナー  
住まいのエリア 住まいと医院の建築とリフォームのご提案  
質流れ大バザール  
大阪の地酒 11蔵めぐり  
質地面ビール販売 & 生ビール即売

★空弁VS駅弁 食のイベント開催!!

★うまいもんフェア 全国特選

大特売場 各種機器、医療器材などをまつり価格でご奉仕いたします。

＜医薬品コーナー＞ 医薬品予約注文受付  
＜歯科コーナー＞ 各種歯科材料、金属、歯科用医薬品、各種機器 etcの展示・予約販売  
＜医科コーナー＞ レントゲンフィルム、投薬ビン、協同組合ブランド品、各種衛生材料、心電図用品、各種診断器具 etcの展示・予約販売  
＜生活関連＞ 事務機器・用品、診療所用消耗品、健康食品 etcの展示・予約販売

※イベント・展示等、検討のため変更される場合があります。